

大規模降雨災害対策の課題と論点(たたき台)

これまでの想定を超える降雨による被害の発生といった事態は、今後
も続くと考え、防災対策を講じていく必要がある。

これまでは、新たに増加した外力に対応すべく、施設の計画規模を高
め、整備を進めるのが一般的である。こうした手法は、今後とも重要であ
るが、施設整備には時間がかかり、そうした防災施設の整備途上で災
害が発生するという状況下に長年月おかれること、一方、計画規模まで
整備が進んでもそれを超える自然の外力が発生する可能性があること
等を考慮し、新たにそうした状況下でも、出来るだけ被害が小さくなるよ
う、施設整備、施設運用、緊急の危機管理、市街地等での備えなどを行
っていく必要があると考えられる。

◎:水害・土砂災害共通 ◇:水害 ○:土砂災害

(1) ◎

これまでの想定を超える降雨の発生に対し、なかなかハード整備が追い
つかない現状で、効率的効果的な施設整備や整備手法はいかにあるべ
きか。

- ・ 計画外力等をも高める手法だけでよいか
- ・ 対象外力として、Level 1、Level 2 という考え方はあるか
- ・ ハードとソフトの効果や役割分担

(2) ◎

整備途上で被災することを前提とした施設整備、施設運用、情報把握・
提供、危機管理はいかにあるべきか。

- ・ 施設等の現況把握の充実
- ・ 施設構造のあり方
- ・ 洪水調節施設の運用ルール
- ・ 被害想定

(3) ◎

大規模降雨による浸水や土砂災害に対して、「川の外」「土砂災害の保全対象」を含めた対策はいかにあるべきか。

- ・ 街づくりでの対応は可能か(建築物、道路等)
- ・ 市街地での氾濫制御は現実的か
- ・ 半地下ビルをはじめとした住まい方
- ・ 個々人レベルでの備え方

(4) ◇

より効果的効率的な総合的な内水対策はどうすべきか。

- ・ 本川の洪水(外水)と流入支川の洪水(内水)の効果的関係のあり方
- ・ 河川全体の中での内水対策の位置付けの再整理
- ・ 河川整備と下水道整備とのより効果的な連携・役割分担

(5) ◇

長時間の高い水位による課題への対応はいかにあるべきか

- ・ 堤防・水門等の構造等の検証と対策
- ・ 台風の進路や降雨予測を基にした事前準備体制等のあり方
- ・ 上記も含めた効果的な水防行動体制

(6) ◎

情報の精度や把握・伝達時間に限界がある中で、小河川及び土砂災害における避難等に関わる情報はどうかあるべきか。

- ・ 注意報的情報と避難勧告等のよりの確なバランス
- ・ 小さい雨域の降雨予測や警戒区域等による避難勧告の範囲限定等のあり方
- ・ センサーによる現地計測の体制
- ・ 以上を踏まえた、出来るだけ客観的判断基準のあり方、その実効性の確保

(7) ◇

急激な水位上昇がある都市内中小河川におけるよりの確な避難や浸水防御のために何をなすべきか。

- ・ 情報の把握・伝達のあり方
- ・ 緊急時の地下空間や建物の止水対策
- ・ 避難すべき河川と他の対応をすべき河川

(8) ○

中山間地の的確な避難や地域全体としての安全確保はいかにあるべきか。

- ・ 情報の提供、避難勧告等災害時要援護者のサポート体制等
- ・ 確実に守られる箇所を確保するための対策
- ・ 情報の把握・伝達のあり方

(9) ◎

より有効なハザードマップはどうすべきか。

- ・ 大河川の氾濫、中小河川の氾濫、市街地雨水浸水をあわせたハザードマップのあり方
- ・ 施設整備の進捗が安全度の向上を反映する記載のあり方と最大被災ポテンシャルの記載のあり方

(10) ○

土砂災害による集落の孤立化に伴う被害をどうすべきか。

- ・ 集落の孤立化を防止する対策の考え方
- ・ 孤立化する事を前提とした場合の集落の地域保全のあり方

(11) ◎

大規模斜面崩壊の発生にどのように対処すべきか

- ・ 河道閉塞が発生した場合の危機管理
- ・ 通常の外力以上の土砂災害に対する、既存対策施設がある箇所の警戒避難のあり方

その他